

# 大学入学共通テスト『情報Ⅰ』『旧情報』への対応

富山県総合教育センター科学情報部 主任研究主事  
東海 直樹

## 1. はじめに

現在の高校2, 3年生に対する大学入学共通テスト「情報」に関することと、富山県における動きを紹介する。

## 2. 文部科学省・大学入試センターの発表から

### 2.1 発表のポイント

2023年6月、文部科学省は「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱<sup>1)</sup>」を、大学入試センターは「令和7年度共通テスト出題教科・科目の出題方法等・問題作成方針・その他について<sup>2)</sup>」を公表した。

これらの発表のポイントについては、以下の通りである。

- ・旧教育課程履修者等に対応して出題される科目の名称は『旧情報』に決定した
- ・『情報Ⅰ』と『旧情報』の問題は一冊の問題冊子に掲載する
- ・旧教育課程履修者等は『情報Ⅰ』『旧情報』のいずれを解答してもよい
- ・解答用紙の様式を公表した
- ・問題作成の方針を公表した

### 2.2 解答用紙

解答用紙(マークシート)は、上段に解答科目をマークする部分があり、第1面、第2面とも3問ずつ、計6問の大問の解答欄がある。横方向に0からdの14個のマーク欄があり、それらが縦に30行並んでいる。

横のマーク欄が0からfの16個であれば、16進法で解答する問題が出題される可能性があったが、その可能性は低くなった。

解答用紙は今後変更する可能性があるとのことなので、可能であれば0からfまでのマーク欄としてもよいのではないだろうか。

### 2.3 出題方針

次のようになっている。

#### 『情報Ⅰ』

日常的な事象や社会的な事象などを情報とその結び付きとして捉え、情報と情報技術を活用した問題の発見・解決に向けて探究する活動の過程、及び情報社会と人との関わりを重視する。

問題の作成に当たっては、社会や身近な生活の中の題材、及び受験者にとって既知ではないものも含めた資料等に示された事例や事象について、情報社会と人との関わりや情報の科学的な理解を基に考察する力を問う問題などとともに、問題の発見・解決に向けて考察する力を問う問題も含めて検討する。

『情報Ⅰ』では「探究」「科学的な理解」がキーワードとなっているようだ。一方、『旧情報』では「活用」「科学的な見方や考え方」がキーワードになっているが、高等学校学習指導要領「情報Ⅰ」の目標が「情報に関する科学的な見方・考え方」で始まっているため、出題方針に関して『情報Ⅰ』と『旧情報』の違いはあまりないと言えるだろう。

また、プログラミングについて『情報Ⅰ』では必ず出題されるが、『旧情報』では選択問題とすることが記載されている。『情報Ⅰ』『旧情報』とも、社会を題材とする問題、資料から考察する問題、問題解決に向けて考察する力を問う問題が検討される。授業では、身近な問題を発見し、解決する活動を繰り返し行うことが必要だろう。

## 3. 富山県の動き

### 3.1 共通テストへの対応

富山県高等学校教育研究会情報部会では、2016年に文部科学省教科調査官(情報担当)を招いて次期学習指導要領の講演を開催し、2017年から部会の研究課題に「2025年『情報』入試の研究」を追加するなど、「情報」入試に積極的に対応しようとする姿勢が見られた<sup>3)</sup>。

しかし、その後の大学入試改革の紆余曲折の影響

等もあり、多くの高校では、2022年度入学生の教育課程を編成する段階で共通テスト「情報Ⅰ」への対応を現実的に考えることが困難であった。

風向きが変わり始めたのは、2022年度にいくつかの国公立大学が配点を発表してからである。なかでも金沢大学が共通テストの配点(経済学類では700点のうち「情報」100点など)を発表<sup>4)</sup>したことの影響が大きく、いくつかの高校では、3年次に情報に関する学校設定科目を新設した。また、「情報」を2、3年次に連続して学習させたいという観点から、「情報Ⅰ」の履修を1年次から2年次に変更する学校もあった。

### 3.2 履修年次への配慮

2020年1月に東京都高等学校情報教育研究会が新学習指導要領実施について情報提供<sup>5)</sup>しているように、情報技術を活用して問題を発見・解決していく力を各教科・科目等のすべての教育活動を通じて育むことができるよう、「情報Ⅰ」は1年次に設置することが望ましいとされている。そのため、2年次に「情報Ⅰ」を設置する一部の高校では、1年次にコンピュータを用いたデータ分析等を学習する時間を確保し、2年次以降の学びがより深まるよう配慮している。

### 3.3 指導体制の充実

教科「情報」では免許外教科担任制度が多く用いられてきた。2022年11月の文部科学省「高等学校情報科に係る指導体制の一層の充実について(通知)<sup>6)</sup>」によれば、富山県の「情報」免許外教科担任は、2020年度40名、2022年度18名、2023年度2名と減少し、2024年度には解消される見込みとなっている。当センターでは、2022年度よりGoogle Colaboratoryを用いたPythonプログラミングなどの研修を実施し、若手情報科教員等への支援を行っている。

### 3.4 中高連携

2023年4月、県内全地区の中学校教育研究会技術部会から当センターに、「技術」と「情報」の連携に関する講演依頼があった。プログラミングの中高連携の事例として、山梨大学教育学部附属中学校の研究<sup>7)</sup>等を紹介した。あまり行われてこなかった中学校技術科と高校情報科の交流が、これを機に活性化することを期待したい。

## 4. 現3年生への対応

旧課程履修者が2025年度入試を受験することになったとき、どのようにアドバイスするのがよいか、2023年7月の日本情報科教育学会第16回全国大会において、代々木ゼミナールより研究発表<sup>8)</sup>があった。

安全志向の高まりから予備校生が減少すること、『旧情報』が2025年限りの実施であることから、『旧情報』に対応した教材はあまり用意されない。そのため、旧課程履修者であっても『情報Ⅰ』の問題集で学習し、『情報Ⅰ』を解答することを勧める、とのことであった。

## 5. おわりに

共通テストを意識するあまり、知識偏重型・詰め込み型の授業とならないよう留意する必要がある。教科「情報」の目的に沿い、「情報は楽しい」「情報は役に立つ」と生徒が感じ、問題の発見・解決に情報技術を活用できる資質・能力を育成できる授業を組み立てていきたい。

### 参考文献

- 1) 文部科学省, 入学者選抜実施要項, [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/senbatsu/1346785.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/senbatsu/1346785.htm), (アクセス日: 2023年7月16日)
- 2) 独立行政法人 大学入試センター, 令和7年度試験, [https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken\\_jouhou/r7/](https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken_jouhou/r7/), (アクセス日: 2023年7月16日)
- 3) 富山県高等学校教育研究会情報部会, 平成29年度総会資料, [https://www.jyoho.tym.ed.jp/29\\_sokai/](https://www.jyoho.tym.ed.jp/29_sokai/), (アクセス日: 2023年7月16日)
- 4) 金沢大学, 入学者選抜方法等の変更(予告), <https://examination.w3.kanazawa-u.ac.jp/admission/henkou/>, (アクセス日: 2023年7月16日)
- 5) 東京都高等学校情報教育研究会, 新学習指導要領実施に向けて, <http://www.tokojoken.jp/jowx5e93t-98/>, (アクセス日: 2023年7月16日)
- 6) 文部科学省, (通知)高等学校情報科に係る指導体制の一層の充実について, [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/detail/mext\\_01837.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_01837.html), (アクセス日: 2023年7月16日)
- 7) 山梨大学教育学部附属中学校, 令和3年度技術分野紀要, [https://www.wgr.yamanashi.ac.jp/modules/research/index.php?cat\\_id=124](https://www.wgr.yamanashi.ac.jp/modules/research/index.php?cat_id=124), (アクセス日: 2023年7月16日)
- 8) 代々木ゼミナール, 日本情報科教育学会第16回全国大会講演論文集 PP54-55, 2023年